

# どーらく 改題 逆説土楽たより

断捨離考

1月号(NO52)通巻202号

2023年1月10日(火)発行(毎月10日)

## 【農暦】心の拠り所が欲しくなる！

○年頃は穏やかな陽射しの天気恵まれている。コロナ感染も収まらないが何となく穏やかな気分で過ごしている。元旦に初詣に行く。おみくじは大吉信心が無くもほっとする。信仰を持つことは心の安寧に繋がるのかも知れない。不安と不信だらけの今、そんな思いがちらつく。だが、旧統一教会のこともある。わざわざになる場合もあるので、一概にはいえない。信じるものは救われるというが、宗教をめぐる問題を見ると？マークがついてしまう。そんな年頭である。いつもを大事にしたいと、いつもの年頭を川柳で詠んだ。

寿にかまほこお屠蘇で元旦を 初詣抹茶茶屋でスタート  
おさなごじジババ並んで初詣 無信心大吉引いてほっとする

○4日朝日に信仰幸せ？足かせ？の見出し記事があった。新興宗教から改宗した人の記事だった。心の拠り所が欲しくなる。1月号の雑誌に「歎異抄」に出会う”が特集になっていた。他力本願

\*の教えに救われたい気持ちにもなる。笠間の西念寺で布教活動した親鸞の教えである。昨年大河ドラマ「鎌倉殿13人」の時代で飢饉、疫病、戦乱の乱世を生き延びた人である。この時代と質の違いがあっても似たものがある。十代で読んだ丹羽文雄の「新鸞」は心の中に残り続けている。いま改めて関連本を時々読み返している。

人間臭い親鸞には親近感がある。また西念寺に詣でたいと思う。○話は変わるが、キュウイは小振り乍ら豊作で品質を気にしながら子供食堂へお届けした。物価高で大変だと言われていたので少しでも足しになればと思う。また、ご近所さんにお裾分けした。家計の足しにはならないが喜んでいただけただよう。

○年末年始は何となく慌ただしい時間が過ぎているが、少しでも、家の中の片付け、草刈り、ブルーベリー、キュウイの剪定と鶏糞堆肥の施肥などを頑張った。山茶花などの剪定もした。残り作業は多いが春先までは続けたいと思っている。年内にはと思っていたブルーベリー、キュウイの剪定は出来たのでよしとしたい(了)

\*他力本願とは法然、親鸞の教えの真髄で他人に依存する意味とは全く違う。蛇足かな。

【楽農】<畑>ブルーベリー、キュウイの剪定、キュウイ収穫。草刈り、畑片付け。

【楽市】イベント等；バードゴルフ忘年大会(13日)詩吟例会(15日)Xmas会(23日)共生の会、川柳の会(5日)\*ワクチン接種(18日)胃カメラ(21日)



<初詣の列>1日撮影



<キュウイ>17日撮影

**【つぶやき=Tweet】酒をこよなく愛し、自然を楽しんだという。陶淵明！**

○昨年は多くの映画関係者が亡くなった。昨年だけのことではないのかも知れないが。フランスのヌーベルバークの旗手のジャンリュック・ゴダール（91歳）が亡くなった。「気狂いピエロ」など多くの問題作を撮り続けた人である。日本のヌーベルバークの吉田喜重が亡くなられた。大島渚は既に9年前に、篠田正浩は91歳と高齢になっている。映画評論家の佐藤忠男さんも亡くなられた。映画の一時代リードした人達の訃報を見て寂しいものを感じた。隔世の時代を生きているのだと自覚させられる。



＜今年も＞17日撮影

○映画繋がりになるが、吉永小百合さんは一晩で10万人以上が亡くなった東京大空襲の3日後に渋谷で生まれ、両親が必死に守ってくれたお陰で無事生きられたという生い立ちで、戦争体験があるとは言えないが“俳優として、広島、長崎の原爆や、沖縄戦を描いた作品に出演し、様々なことを、学んできました。そうした方々の、思いを伝えていけなければ、いけないという気持ちで、86年に原爆詩の朗読を始め、その後、東日本大震災の被災地や、沖縄の方の詩も取り上げ、ライフワークにしている”という。ほぼ同じ世代を生きているので考えさせられるものがある。

○小百合さんは、一昨年亡くなられたジャーナリストであり作家の半藤一利さんについて“菊池寛賞を、一緒に受賞したのが、きっかけで、お話を伺い。私にとって、師匠のような存在でした”と言う。また“東京大空襲の夜、中学生であった半藤さんが、火の海の中、川に飛び込み、船頭さんに助けられ、一命を取り留めた体験を聞いた”と言う。半藤さんは「ずっと、戦後であってほしい」「戦争だけは、絶対に始めてはいけない」と言葉を残されている。



＜茶屋で美味だった＞1日撮影

○戦争を体験した人がいなくなった時、戦争の危機が始まるという。今の政治家で戦争体験した人は恐らくいない。9条がないような論議が普通に行われるようになってきている。43兆円の防衛費、専守防衛も一線を越えたものになるようとしている。半藤さんの「ずっと、戦後であってほしい」が危うくなっている。ウクライナだ、台湾だ、北朝鮮だと。軍拡が進められている。戦争には正義も勝者もない。訃報の記事に接し時代の変節を感じる。少し前を生きた故人の業績や生き方を考えるのも大事だと思う。今がどれほど変わったかを考える時にしたいものである。

○詩吟で出会った人で陶淵明がいる。南宋時代（日本の古墳時代）の人で、酒をこよなく愛し、自然を楽しみ、琴を友として詩を作りをしたと謂う。また桃源郷を目指したともいう。漢詩には酒がよく出てくる。そんな気分になりたいが、ユートピアは酒酔いの中だけのようだ。なかなか楽しい話が出来ないのが寂しい。（了）

○断捨離考：年末整理は少しだけ継続したい。

**【後記】困った時の神頼みは否だが！【HP転載】。**

発行者；小暮虎雄

住所；笠間市本戸4201-10

携帯電話；090-9333-4135

HP；kogure農場

メール；torao-k@nifty.com